

「布のほつれ止め用マシン。販売は国内4割、海外6割の比重」 コロナ特需発生し、年産4万台～5万台キープ

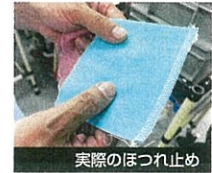
ロックミシンのパイオニア、鈴木製作所（山形市）
ユキワ精工ツリーリングユーザー訪問 — 松田工場長に聞く



取材に対応して頂いた松田工場長

トプールを活用し、夜間運転にも配慮しながら、24時間稼働を目指している。
コロナ特需が発生し、生産量が拡大、年産4万台、5万台ペースと言ったのが昨年から今年にかけての実績。課題となるのが、残業を減らすため、いかに生産性を上げていくか。

ダイキャスト部材の切削加工が基本
様々な治具で
段取り時間ゼロを追求
パレットプールの活用で
24時間稼働員指す



実際のほつれ止め

家庭用ロックミシンの製造で著名な山形市の鈴木製作所を訪問した。
松田工場長は「ロックミシンは布のほつれ止め用の布の厚さに関係なく自動調整し、裁断しながら縫うオートマチック機能を展開している。
面倒な糸通しを解決したエアスルスシステムの採用が大きな特徴」と機能や性能を説明してくれた。
1968年に職人さんや家庭でも使える小型のロックミシン（ペーローグ）を世界で初めて開発。現在、国内4割、アメリカ、イギリス、他、全世界に向けて6割の比率で販売を展開している。
「おおよそ3カ月前まで仕事が埋まり、予定が組まれているが、受注内容から作り置きが可能な場合も多い。設備に求めるのはスピードで、時間当たりの出来高を上げて、海外勢との競争力で差を工では段取り時間ゼロを追求し、様々な治具で設備は「スピード重視」で選定

好例として牧野フライス製作所DMG森精機「スピード重視その考えを織り込んで具体化したのが2012年に検討した加工設備の老朽化更新時。DMG森精機NHS000DC」と牧野フライス製作所「a61nx」を導入し、生産開始。その後、牧野製同型機を2台、a61nx1台の追加導入と結びつく、いずれも40番主軸の横形マシニングセンタすべてパレットプール付き。ロックミシンのフレーム加工は横形マシニングセンタ。その他の多品種少量部品には立形マシニングセンタを使用している。

リーマ加工のチャッキング精度で
優位性発揮したスーパーG1チャック
刃具交換時間短縮に直結



生産課の渡邊主任(左)と岸主任

「精度を要するリーマ加工で100%活用。
突き出し量の長いドリル加工でも振れがない」

「ユキワ精工のツリーリングでは、12台ある自動旋盤にEYコレットを採用。シャフト物加工に24時間稼働させているが、低価格でありながら加工精度が良くなり重宝している」との意見も聞かれた。



Super G1 Chuck

YUKIWA

ユキワ精工株式会社

YouTubeにて動画公開中!!

http://g1-chuck.com

本社・工場 / 〒947-0052 新潟県小千谷市千谷2600番地1
TEL.0258-81-1111(代) FAX.0258-81-1112
営業所 / 東京、名古屋、大阪、中国(上海)、U.S.A.
URL http://www.yukiwa.co.jp/